

二〇一三年三月二十九日

沖うらら浮灯台のたゆたへり  
母の歩に合せて愛づる花の道

はく子  
百合

二〇一三年三月二十八日

花の門我に來たれとイエス像  
真白なる聖母子像や風光る  
谷戸の田の一隅蝌蚪の水となる  
屋台まだ柱組みなる花の昼

よし子  
わかば  
よし女  
なつき

二〇一三年三月二十七日

鳥帰る千手を翳す楠の空  
シスターと会釈を交はす春の道

よし女  
満天

二〇一三年三月二十六日

献茶祭宮居はいまし花万朶  
踏青子陸軍墓地を訪ねけり  
尼寺の庫裡にいかなご煮る匂ひ

わかば  
ぼんこ  
よし子

二〇一三年三月二十五日

風光る湖へ開きし浮御堂  
春昼のベンチ座れば鳩寄り來

雅流  
満天

二〇一三年三月二十四日

宵闇にひろがる花の白さかな  
鶯のもう一声を待ちにけり

宏虎  
さつき

毎日句会みのる選・二〇一三年四月一日